

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092600057		
法人名	株式会社 小田コーポレーション		
事業所名	グループホーム 真心		
所在地	〒824-0026 福岡県行橋市道場寺1274-1	TEL 0930-26-3030	
自己評価作成日	平成 23年06月15日	評価結果確定日	平成23年08月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL 093-582-0294	
訪問調査日	平成 23年07月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年9月1日にオープンしたばかりで、新築、木造でなにか懐かしく思える温かみのあるホームです。室内の天井は吹き抜けで圧迫感がなく、木の匂いが香る落ち着いた雰囲気になっています。又ホーム前は草原が広がり、春は、菜の花、桜、桃の花、蓮華草など、沢山のお花が広がります。又介護理念は思いやりを持ち優しく笑顔で接します。の通りの介護を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「真心」は、青空と緑の草原に囲まれた中で、木造平屋建てのグループホームである。「思いやりを持ち、優しく、笑顔で接します」という理念を職員が理解し、利用者の目線に立って介護している姿は、家族に安心感を与えている。開設1年ではあるが、管理者は、地域密着型事業所として地域に貢献し、ホームに協力していただく関係を作るために、運営推進会議を通じ、交流を図り、ホームの夏祭りに地域住民が参加する等、交流の輪が広がっている。また、訪問医療、訪問歯科を定期的に行い、利用者の健康状態を細かくチェックし、健康管理は行き届いている。今後、利用者の重度化に向けて、管理者は職員の技術力を高め、意識の高揚を図り、利用者や家族から「ここで暮らせて良かった」と思われる介護サービスを目指し、職員全員が頑張っているグループホーム「真心」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を玄関口に掲げ毎日の朝礼で唱和している。	「思いやりを持ち優しく笑顔で接します」という理念を玄関に掲げ、職員はミーティング時に唱和し、理解した上で、実践に向けた取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。又定期的にボランティアが訪問し、ホーム内の行事のときに地域の方を回覧板でお誘いし、一緒に行事参加をしている。	自治会に加入し、利用者と職員は地域行事に参加したり、初めて取り組んだホーム夏祭りに家族や地域の方に大勢参加してもらう等、交流の輪が広がっている。ご近所からの野菜や果物の差し入れはしょっちゅうであり、日常的な交流が行われている。また、施設長は、近隣の小学校や幼稚園を訪ね関係作りのための努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後認知症サポーター養成講座などを開催して地域の方に理解をして頂こうと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している。又地域の方、ご家族の方、行政の方のご意見を参考に取組んでいる。	会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの現状や予定、課題などを報告し、参加者からは活発な意見が出され、充実した会議になっている。また、出された意見は検討し、できるだけ運営に反映できるよう努力している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる	定期的に介護保険課や地域包括センターに顔を出し、分からない事あればすぐに確認をしている。	施設長は、常日頃から行政窓口に出かけ相談や質問を行ったり、運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状と取り組みなどについて理解してもらうなど、連携が始まっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていません。又拘束を行わないように勉強会を行っている。	身体拘束廃止マニュアルに基づき研修を行い、身体拘束が利用者にもたらす弊害を職員全員が理解し、身体拘束をしない介護の実践にむけた取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフがストレスを溜めないように心身のチェックを行っている。又虐待防止マニュアルで研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的勉強会を開催しレベルアップに努めている。	現在、制度の該当者はいないが、研修や勉強会で内容を把握している。	制度に関する資料やパンフレットを用意し、利用者や家族が、制度が必要になった時に職員がいつでも必要なときに説明し、利用するための橋渡しができる体制作りを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず十分な説明を行い、契約を交わしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し家族や、地域の方が来所した時に意見が出せるようにしている。	開設1年目であるが、利用者や家族と信頼関係を作り、意見、要望が言い易い環境である。また、意見箱を設置し、施設長は、「クレームは神様からの贈り物」と来訪者に声をかけ、意見を聞き取ろうと努力している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフミーティングを持ち、意見を交わしている。	施設長は、日頃から職員に対して、「何でも言っ」と声をかけ、職員とコミュニケーションをとっている。また、毎月職員会議を開催し、意見の集約を図り、職員の思いや要望を聞き取り、ホーム運営に反映させるよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価又は第三者評価を行い、給与に反映している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は年齢、性別、経験不問で採用している。又採用時にどのような思いで働くかを確認している。	職員の採用は、年齢、経験より、その人の人間性や介護に対する思いを重視している。また、職員が生き生きと働くことが出来る職場環境を目指し、努力を重ねている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に勉強会を行っている。	職員会議時に研修会を開き、人権教育の勉強会を実施し、施設長の思いでもある、「利用者さんの幸せを考えてよりよい介護を行うために」、人権意識を高め、啓発活動に繋げている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一回のグループホーム協議会に参加しており、意見交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人の不安や要望を十分に聞き生活支援に取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず家族の方の不安や要望を十分に聞き生活支援に取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には必ず家族と本人から十分に聞き何を求めているのかを把握しサービスに努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、一緒に掃除や食事の準備しもらい、コミュニケーションを図り、信頼関係を作っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、家族に情報提供をして関係を維持している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人が今まで使っていた物など持ってきて頂き、又馴染み方とお話したいときは電話や手紙の支援をしている。	面会の呼びかけを行い、利用者の知人などの来訪を促したり、また、電話や手紙など利用して、馴染みの関係継続ができるよう支援している。また、家族と相談して、利用者の行きたい所に同伴できるよう努力をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は全員極力居間に出てきて頂き、コミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	万が一退去されても、不安や心配が無いが、ご連絡して行こうと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方から良く話し聞き何を求めているかを把握し無理の無いような対応をしている。	職員の離職がないことで、利用者との馴染みの関係が深まっている。職員は、利用者が思っていることを出来るだけ時間をかけて聴き取り、家族と話し合い、利用者が穏やかで楽しい暮らしができるよう、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族等から生活歴等よく聞きサービスの向上に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースあった過ごし方をして頂き残存能力を活かした生活をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスに基づき介護計画を作成している。	モニタリングやカンファレンスを定期的に行い、利用者や家族の希望を聴き、関係者と話し合い、介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態に応じ、その都度、見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録や支援経過を参考に介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日その時にあわせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや訪問美容、訪問マッサージなどで地域の方と交流を活かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者に応じた通院や往診又は受診援助を行っている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医や提携医を選択してもらっている。提携医による定期的な往診や訪問歯科により利用者の健康管理体制を確立している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各かかりつけの病院の看護師と連携をとり情報交換を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各かかりつけの病院の医師や看護師と連携をとり情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族とお話し、今後のあり方について十分に検討していきたいと思う。	入居時に、利用者や家族に対して重度化に向けた方針を説明し、理解してもらっている。また、ホームで利用者のために、何が出来るのか常に話し合いをしている。	ターミナルケアの指針を作成し、ホームで対応できる事、できない事を明示し、利用者や家族に理解してもらい、関係者で重度化に向けた方針を共有し、安心して暮らせる支援体制の構築を期待する。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会、訓練を行い備えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月に消防訓練と心肺蘇生の訓練を行い、今後も年に2回以上の訓練を行う予定。	消防署の指導により、非難訓練を実施している。近所に住む職員と連携をとりながら非常時に備えている。	地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練の実施と、非常災害時に備えて、非常食、飲料水、毛布などの備蓄の準備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にやさしい声がけをし、本人の持ったプライドを尊重している。	思いやりを持ち、優しく笑顔で接するという理念を、職員一人ひとりが理解し、利用者のプライドを守り、日々の暮らしが穏やかで楽しいものになるよう支援をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別でお話を伺い、本人の意見を尊重している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日個々の性格、心身の状況にあった生活を支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日本人の好きな服を着ていただき、整容も行っている。又化粧をする方はして頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、食事の準備を一緒にしている。	食事は、利用者の楽しみの一つであり、9人全員が自力で食事を摂る姿から、食事が健康増進に繋がっていることがわかる。また、おやつは利用者と職員と一緒に手作りし、ホットケーキ作りなどに挑戦している。	利用者と職員が同じテーブルで会話をしながら楽しく食事をし、食後の団欒を過ごすことで、食事をする喜びに繋げることを期待したい。また、食事の味、色合い、盛り付けなど、検食を取り入れ、検食ノートとして記録することが望まれる。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量チェックをしおり、個々に応じた分量にしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、チェックし磨き残しがあれば、もう少し磨く様に促しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現に紙パンツから布パンツに改善した入居者もいる。又、随時トイレ誘導お声がけし、リズムを作っている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、優しい声かけや見守りで自立に向けた排泄の支援をしている。また、入居時、紙パンツの利用者が布パンツになるなど、自信回復に繋がる支援体制がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分摂取と運動を促しを援助を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週3回の入浴を行っている。又希望があれば随時対応していこうと思う。	入浴は、週3回であるが、利用者の健康状態や都合を優先し、入浴の支援をしている。また、入浴を拒まれる利用者に対しては、寄り添いながら、拒否の理由を探り、声かけのタイミングをずらしたりするなど、工夫しながら支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあった状態や状況で休んで頂こうと思っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理はホームで行っている。又常に状態変化に気をつけ様子観察を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や能力に応じたレクリエーションを実践している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的又は随時外出をしており、又美容院なども家族の協力で出かけている。	利用者の健康状態や、天候に合わせ、散歩、ドライブ、買い物、畑仕事など、外出の支援をしている。また、広い敷地にテーブルを広げ食事をするなど、外気に触れる機会を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が財布をもっているかたは希望があれば買物援助を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は申し出があった場合は自由にして頂いている。又手紙も書いて送っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は吹き抜けで圧迫感を感じさせない空間になっており、又天窓から程よい陽射しが入ってくる。	素晴らしい自然環境の中、木造住宅の特徴をフルに活かし、家庭的な温かい雰囲気と安全面の配慮で、安心して居心地よく暮らせる環境である。また、玄関には花を生け、リビングの大きな窓から眺める外の草木の緑は額縁の絵のようで見事である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂が兼用になっており、ソファも設置し、好きな場所でくつろいで頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の今まで使って頂いたものや、好きなものをもて来て頂き使用してもらっている。	居室は広く、家族との協力で利用者の使い慣れた馴染みのものを持ち込んでもらい、自宅と違和感のない、安心して暮らせる環境である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、浴室やトイレ等も手すりを付け安全になっている。		